

家畜体内受精卵移植講習会受講報告

フィールド科学系部門生物生産技術班

近松 一郎

1. はじめに（目的等）

西条ステーションでは牛の家畜人工授精を行っているが、人工授精には凍結精液を融解し雌の生殖器に移し授精させる方法（A I）と受精卵を生殖器に移し授精させる方法（E T）があり、それぞれに免許が必要である。A Iは雄側からの改良でE Tは雌雄両側からの改良と考えられており、改良はA Iよりも効率的で市場価値の高い牛が生産できるが、受胎率はA Iよりも低く、生殖器の深部に移す必要があり難しいとされている。西条ステーションでも両方の授精方法を行っており、授精技術の向上を目指す意味でもA IだけでなくE Tの免許の取得が必要である。

2. 期間・場所

期間：平成30年1月10日～平成30年2月2日（18日間）

会場：（公財）中国四国酪農大学校（岡山県真庭市蒜山西茅部 632）

3. 参加者等

受講者：約 29 名

4. 研修内容

学科

- ・体内胚移植概論
- ・胚の生理及び形態
- ・体内胚の処理
- ・胚の移植

実技

- ・体内胚の処理
- ・胚の移植

修業試験（学科・実技）

5. 所感

他県で行われた今回の講習会では岡山県職員の獣医師や技術職員が講師として講習会を開催しており、受講者も兵庫県職員や岡山県内の畜産農家、酪農大学校の学生などが参加していた。広島県内の講習会では参加者の顔ぶれが毎回ほぼ決まっており、新たなネットワークを広げる事は難しいが、今回の講習会では県外の情報や技術、また普段では知り合う事のできない人と出会う良い機会になった。技術面では特に子宮頸管の所見のとりがこれまで習ってきた方法よりも具体性が有

り、他者への説明がしやすいものだったため、業務に取り入れ使っている。また参加者が就農前の学生が多く、畜産業界にこれから挑戦する意気込みや目標を聞くことができ、自分自身の就職前の目標や就職後の目標や感情の変化などを思い出し、今後の目標を考える良い契機になった。

酪農大学校ではホルスタイン種やジャージー種が主に飼養されており、黒毛和種なども飼養されている。実習では性周期における牛の状態の変化（子宮や外陰部の状態など）をこれらの牛を使い所見し、発表したが、種類や体型で所見の取り易さや牛の扱い易さが違っており、西条ステーションでは飼養していないジャージー種の反応（性格）はホルスタイン種とは違いがあり新鮮だった。また受講者の多くが体格の大きいホルスタイン種よりも体格の小さいジャージー種の方を所見が取り易いと感じたようで、大学の直腸検査の実習でも体格の小さい牛を使うなどの配慮が必要であると感じた。